

2018年3月期第3四半期決算説明資料

発表日時：2018年1月30日（火）15:30（今回、説明会の開催はございません）

【決算 スライド1～2 決算のポイント】

- 今回の決算は、収入面では、販売電力量が減少した一方、燃料費調整額の増加などにより電気料収入が増加したことなどから、経常収益が増収となり、費用面では燃料費や購入電力料などの増加があったものの、経常利益は5年連続の黒字を確保いたしました。
- 具体的な連結決算の数字は、スライド2をご覧ください。
- 売上高は、前年同期比で8.5%増の4兆2,064億円と「増収」、経常利益は10.4%減の2,742億円と「減益」となり、特別損益を加えた四半期純利益は、2,256億円と「減益」になりました。

【決算 スライド3 販売電力量、収支諸元】

- 販売電力量ならびに収支諸元についてお示ししております。
- 上段の販売電力量につきましては、前年同期比4%減の1,701億kWhとなりました。
- 下段の収支諸元につきましては、後ほど触れさせていただきます。

【決算 スライド4, 5 収支の状況】

- スライド4の収益面についてご説明させていただきます。
- 経常収益ですが、2行目の「電気料収入」は、表の吹き出しにある通り、販売電力量の減少により前年同期比で1,410億円減収となる一方、燃料費調整のプラス影響が2,050億円あったことなどにより、2.6%、854億円増の3兆3,207億円となりました。
- また、太陽光発電の普及により7行目の再エネ特措法交付金が385億円増加し、8行目の託送収益が521億円増加するなど、電気料収入以外の収入も増加し、経常収益は8.0%、3,159億円増の4兆2,412億円となりました。
- スライド5の費用面についてご説明させていただきます。
- まず、2行目の「燃料費」についてご説明いたします。
- スライド3の下段にある通り、今期は、為替レートが5.1円円安となるとともに、原油価格が9.0ドル、LNG価格が8.6ドル上昇しています。
- これに対し、火力全体の熱効率を0.5%向上させるといった取り組みなどの成果はありましたが、

スライド5の吹き出しにある通り、価格要因で1,750億円の負担増となりました。

- 一方、消費量の面では、販売電力量の減少に伴い、火力発電量も減少したことから300億円減となりました。
- これらの結果、「燃料費」は、18.4%、1,446億円増の9,329億円となりました。
- また、太陽光発電からの購入の増加によって、5行目の「購入電力料」に加え、「再エネ特措法納付金」を含む9行目の「その他費用」が増加しましたが、グループを挙げた継続的なコスト削減により、経常費用は、9.6%、3,478億円増の3兆9,669億円にとどまりました。
- 以上の結果、最下段の経常利益は2,742億円と、5年連続で黒字を確保いたしました。
- なお、前年同期比で、10.4%、318億円の減益となっておりますが、これは第2四半期決算と同様、主に燃料価格や為替による燃料費調整制度のタイムラグ影響によるものです。

【決算 スライド6 特別損益（連結）】

- 特別利益は、5月と6月に原賠機構からの資金交付金として1,286億円を計上した一方、特別損失は、原子力損害賠償費として1,393億円を計上いたしました。
- これにより、特別損益はマイナス107億円となり、前年同期比で402億円減となりました。

【決算 スライド7 連結財政状態】

- 自己資本比率は、総資産残高が減少したことや、四半期純利益の計上により純資産が増加したことなどから、前年度末より2.0ポイント改善し21.1%となりました。

【決算 スライド8、9 2018年3月期業績予想】

- 2017年度の業績予想については、スライド8と9で示している通り、昨年10月にお知らせした内容から変更はありません。

【補足資料（スライド10以降）】

- スライド10以降は補足資料です。

以上